

2025 年度日本語教育学会春季大会 一般公開プログラム 開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会
企画：調査研究推進委員会
助成：一般社団法人尚友倶楽部
日時：2025 年 5 月 24 日（土）10:00-12:00
参加者：586 人



1. 企画の趣旨

日本語教育学会は、「人をつなぎ、社会をつくる」ことを使命とする学会です。今回のプログラムでは、日本語教育に携わる 2 名、教育心理学の研究者 1 名を登壇者として招き、「若者のキャリア形成支援としての日本語教育—自律性・主体的自己決定を支える—」をテーマに、以下の 3 点をねらいに、企画されました。

- ① 多様なキャリア形成を支える日本語教育、特に自律性や主体的自己決定を支える教育とはどのようなものかを探る。
- ② 多様なキャリア形成に関わる日本語教育の現場における実践例を知るとともに、課題を把握する。
- ③ 多様なキャリア形成を支える日本語教育の可能性と限界について、自らの現場や経験に引きつけながら考える。

2. 当日の流れ

登壇者は、金子史朗氏（友国際文化学院 校長）、志賀玲子氏（武蔵野大学グローバル学部日本語コミュニケーション学科 教授）、鹿毛雅治氏（慶應義塾大学教職課程センター 教授）の 3 名でした（話題提供順）。

まず、司会の伴野崇生調査研究推進委員会委員から趣旨説明が行われ、本プログラムにおけるキャリア(形成)、キャリア形成支援の以下の定義が共有されました。

- キャリア(形成)：生き方を自ら描き、学びと実践を通して成長し続けるプロセス
- キャリア形成支援：将来の見通しが難しい中であっても、自分自身の将来像を必要に応じて修正しながら主体的に描き行動できる力の育成／後押し

また、目指されるのは、視点・考え方・考え続けるための問いであることが示されました。

その上で、登壇者がそれぞれどのような形で「若者のキャリア形成支援としての日本語教育」に関わってきたか、「若者のキャリア形成支援としての日本語教育」を登壇者の実践・研究領域からどのように捉えるのかについて 10 分程度のショートプレゼンテーションが行われました。その後、ディスカッション・質疑応答が司会のファシリテーションのもと展開されました。主なディスカッショントピック、質問内容は以下の通りです。

[ディスカッショントピック例]

- ショートプレゼンテーションで示された「教師の居方」という考え方について、日本語教育の現場の立場からどう考えるか。
- キャリア形成支援に必要な力量は、研修可能なものか。

- 周囲が「やさしかった」「助けてくれた」ことを外国につながる(元)子どもたちがどう捉えるかがキャリア意識に関わるという考え方について、登壇者それぞれの立場からどう捉えるか。

[質問内容例]

- 「キャリア授業」は日本語授業内だけで十分か。キャリア教育専門教員による独立科目として実施すべきではないか。
- ビリーフが強く変化を拒む学生に対する働きかけで成果を上げた事例はあるか。
- 経済的・能力的制約で夢を断念せざるを得ない学生が少なくない状況下において、将来への自律性育成はどれほど意義があるか。

なお、参加者は最大 586 名、寄せられた質問数は 35 件でした。

3. アンケート結果

実施後のアンケート（有効回答数 178）では、内容についての 4 段階評価のうち、「大変よかった」が 80.3%、「よかった」が 16.9%で、合計で 97.2%が肯定的な評価でした。自由記述部分では、「タイムリーでもあり、かつ永遠に続くようなテーマですが、各先生方のお話が大変わかりやすく、有意義な時間を持つことが出来ました」「認定日本語教育機関の申請に向けて、学校も教師も意識改革をしていかなければならない時期なので、キャリア授業の話やリフレクションの話はとても参考になりました」といった肯定的な感想、意見が見られました。一方、「キャリア形成がテーマであったがディスカッションの内容はキャリア形成に関わる事柄からかなりズレていた。しかし、話されている内容そのものは大変勉強になり多くの気づきがあった」という意見も寄せられました。

また、運営については「大変よかった」が 79.2%、「よかった」が 19.7%で、合計 98.9%が肯定的に評価していました。自由記述部分では、「違う分野からの視座は、日本語教育にとってとても大切だと思いました」「質問をチャットに入力しない仕組みが良かったです。チャットが動くたびにそちらに気がいってしまうので、それがなくて有り難かったです」といった肯定的な感想、意見が見られました。一方、「質問ではなく反応の場としてチャットボックスを解放してもよいかと思いました」という要望も見られました。また、「大会特設ホームページの URL を見つけるのが難しかった」「SNS でもう少し宣伝が多かったらいいなと思います」といった指摘や意見も見られました。

4. 今後に向けて

本プログラムの円滑な実施に向け、一般公開プログラムの企画・運営担当者は、登壇者との事前打ち合わせやリハーサルを重ねてきました。当日は通信環境も安定し、ディスカッション・質疑応答は、活発かつスムーズに進行することができました。今回の成果と反省点を踏まえ、今後の大会運営、プログラム内容の充実に向け、引き続き尽力していきたいと考えます。なお、当日のプログラム動画は以下から視聴可能です。

[2025 年度春季大会一般公開プログラム「若者のキャリア形成支援としての日本語教育—自律性・主体的自己決定を支える—」動画（全編）](#)

以上